

令和 5 年度

# 研究紀要

第 19 号

秋田県立横手清陵学院  
中学校・高等学校



「よい授業とは何か」という問いに対する答えは様々である。これまで、「まさにそれだ」という答えに出会ったことがない。国からの指針として示されることも、求められる学力、身に付けるべき力、学力調査からみる弱みと強み、学習評価の在り方、評価規準と評価の観点など多岐にわたるが、「よい授業とは何か」の直接的な答えと言えるものはなかなか無い。

校内の研修、地域の研究会、公開授業研究会、教育研究大会などで授業に対する研修と研究が行われているが、100%のものにはなかなか出会わない。あったとしてもそれを日常の授業で再現していくことは簡単ではないし、再現したとしても「よい授業」になるとは限らない。対象とする生徒の既習事項とその定着度、前時の学習内容、教具や機器の使用とその準備、生徒同士の関係性、生徒と指導者の関係性など様々な要因によって授業の様子は変わってくる。

オンデマンドによる動画を視聴しての学習が学習塾や学習支援ツールで広がっているが、そこでの「よい動画」は、それを視聴して学ぶすべての生徒にとって「よい授業」となり得るのか。必ずしもそうではないように感じる。

自分がやってきた授業のことはさておき、授業を参観していて「いい授業だな」と感じるときの共通点を思い起こしてみると、「指導者が生き生きしている」「生徒の顔が上がっていて、いい表情をしている」様子が思い浮かぶ。

そういった状態になっている要因を想像してみると、

- ①その教科、その単元、その教材を先生が心から「おもしろい」と思って授業に臨んでいる。  
そして、生徒にそれが伝わっている状態。
- ②生徒がその授業にとっても熱心に取り組んでいて、指導者の予想を超える反応を示している。  
その結果、指導者もはりきって楽しく授業を進めている。
- ③先生の表情や受容の姿勢が生徒に安心感を与え、かつ生徒一人一人の心の動きを指導者がしっかりと掴んで授業を進めている。

といったことが考えられる。

①～③のどれか一つとは限らないし、もちろん、他の要因もあるだろう。しかし、これまでの自分の経験を振り返って考えるとき、最も基本的でありかつ最も大事にしなければならないのは、③ではないかと感じる。講義式の一斉授業の場面でもそうだし、生徒どうしの学び合いが多い授業でもそうだが、生徒の立場で考えたときに、先生と目が合った状態で、認めてもらったり声をかけてもらうような場面があれば、その授業が「自分にとって大事な時間」となり得ると思う。また、指導者側は生徒の表情を見るだけでなく、一人一人の目を見る。そして、そこから心の動きを読みとり、補足の説明、補足の質問、個別の助言などのリアクションを起こす。それが日ごろからできていることで、①や②の状態が出現する可能性が高まる。生徒の目からの訴えは、指導者への評価であると考えべきであり、それに即座に対応することは、最も効率がよく、即効的な「指導と評価の一体化」であろう。このように考えると、動画を視聴しての学習が「よい授業」となり得ないのは、当然といえるかもしれない。

さて、急速に進んだ教育のICT化であるが、本校では令和3年度から4年度にかけて県の指定を受けてICTを活用した授業の在り方を研究してきた。その成果もあり、授業でのICTの利用が当たり前となっている。授業における生徒一人一人の状態の把握と、それに対する指導者の対応においてICTをどう活用できるのか、または、やはり指導者が生徒一人一人の目を見て表情を読みとることが必要なのか、ICT活用によるマイナスの面も取り上げられてきている中で、さらに研究・実践が求められる。中高の連携、総合技術科教員のスキルなど、本校の特色と強みを最大限に生かし、「よい授業」を目指していきたい。

令和5年度 研究紀要（第19号）目次

1	研究授業および校内研修の記録	
	(1) 中学校指導主事訪問	
	・中高連携の授業改善への取組について	・・・1
	・令和5年度 指導主事訪問一覧	・・・2
	・学習指導案	
	国語 佐々木 雅典	・・・3
	社会 丹波 新吾	・・・7
	総合的な学習の時間 利 敬一郎 長沢留美子 小松 裕太	・・・13
	(2) 校内研修会	
	職員研修会 子どもが心を開くアプローチ	・・・17
2	探究活動について 須田 宏 田口 朋美 利 敬一郎	・・・19
3	年次研修の記録	
	初任者研修 小野 孝之	・・・26
	教職5年目研修 小松 裕太	・・・28
	実践的指導力向上研修（高等学校8年目）	・・・29

## 中高連携の授業改善への取組について

研修・研究部では、中高連携を通じた授業改善として以下のような取組を実施した。

本校の特色である中・高教員合同での教科研修会と中学校教員全員での全体研修会、という二通りの研修会を開催することで、中高両教員の授業改善に対する意識の向上を図った。今年度は、当該教科以外の高校教員が、中学校の授業を参考にして高校の授業改善に役立てようと、例年よりも多数参観に来ていただいたように思う。

また、総合的な学習の時間に関しては、高校の総合的な学習の時間の担当者に、中学校の全体研修会にも参加していただいた。中学校での総合的な学習の時間の活動計画や、実際の活動の実態を知っていただくことで、高校での学びや発表会につなげていただきたいと考えたからである。中高両教員が共に1つのグループの協議に入ることで、今年度の成果と次年度に向けた課題について共通理解を図ることができたと感じている。

中学校…共通実践事項を意識した授業改善を推進していく。共通実践事項の意識付けと学習規律の定着を図る。

中高連携…国語、社会、総合的な学習の時間の指導主事訪問の際に、本校の特色である高校教員との研修会を行い、研修を深める。道徳に関しては、高校の教員と中学校の学級担任によるティームティーチングを実施することで、生徒への発問や板書の工夫について研修する。

高校…共通実践事項を踏まえた授業改善に努める。ICT活用推進事業を経て、中学校と連携して授業改善に取り組む。

### 中学校 〈研究テーマ〉

問題を発見し、豊かな関わりの中で主体的・対話的に問題を解決しようとする生徒の育成  
〈共通実践事項〉

- 1 導入の工夫と学習課題の明示
- 2 自分の考えを（相手に伝わる話し方を意識して）発表する機会の保障
- 3 視点を明確にした振り返り活動
- 4 方向性や視点を明確にした話し合い活動
- 5 ICTの効果的な活用（活動場面に応じた工夫）

### 高等学校 〈授業改善のテーマ〉

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けての教師側の手立ての工夫  
〈共通実践事項〉

- 1 導入の工夫と学習課題の明示
- 2 ICTを活用した効率的、能動的かつ協同的な授業展開と教育効果の向上

## 令和5年度 指導主事計画訪問一覧

<研究主題>

問題を発見し、豊かな関わりの中で主体的・対話的に問題を解決しようとする生徒の育成

1. 期日 令和5年6月2日(金)

教科等 社会科

指導者 南教育事務所仙北出張所指導主事 高橋悠葵 先生

校時	学級	教科等	单元名	授業者
4	3年A組	社会	二度の世界大戦と日本	丹波 新吾

2. 期日 令和5年7月12日(水)

教科等 国語科

指導者 南教育事務所仙北出張所指導主事 粟津明子 先生

校時	学級	教科等	单元名	授業者
4	1年A組	国語	おすすめの本を紹介する～聞き手を意識して話す～	佐々木雅典

3. 期日 令和5年12月14日(木)

教科等 総合的な学習の時間

指導者 南教育事務所仙北出張所指導主事 物部長秀 先生

校時	学級	教科等	单元名	授業者
4	2年A組	総合的な学習の時間	創造学 秋田活性化プロジェクト	利 敬一郎 長沢留美子 小松 裕太

1 単元名 おすすめの本を紹介する  
～聞き手を意識して話す～

2 単元の目標

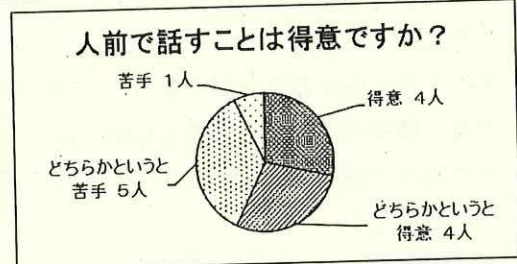
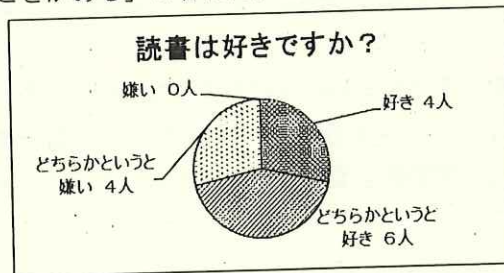
- (1) 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。  
〔知識及び技能〕 (3)オ
- (2) 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕 A(1)ア
- (3) 相手の反応を踏まえながら、選んだ本の魅力が分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕 A(1)ウ
- (4) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。  
「学びに向かう力、人間性等」

3 生徒と単元

(1) 生徒の実態 (男子6名 女子9名 計15名)

生徒は国語の学習に意欲的に取り組んでいる。学級では、帰りの会などでスピーチをする時間が設けられており、ほぼ毎日「話すこと・聞くこと」の活動を行っている。国語では、4月に「野原はうたう」の学習で、のはらむらの住人になりきって「のはらうた」を音読する学習を行った。入学して間もないこともあり、お互いに恥ずかしがって、なかなか住人になりきった音読はできなかった。

読書についてのアンケートでは、「好き」「どちらかという好き」を合わせると10人おり、読書は比較的好きな生徒が多いことが分かる。「話すこと・聞くこと」についてのアンケートからは、約半数の生徒が人前で話すことに苦手意識をもっていることが分かった。理由としては、「緊張する」や「恥ずかしい」というものが多かった。生徒は小学校1・0校から集まってきており、学んできた言語活動がそれぞれ違うことが考えられる。しかし、ビブリオバトルについては、11人が「知っている」「聞いたことがある」と答えた。さらに小学校で実際に活動したことがある生徒も5校10人いた。



(2) 単元について

本単元は、中学校学習指導要領（平成29年告示）第1学年の〔知識及び技能〕(3)オ「読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること」をねらいとするものである。自分の「おすすめの本」を友達に紹介する方法として、ポップによる紹介や、読書掲示板の活用、読書記録をつけるといったことが考えられるが、「人前で話すことに苦手意識をもっている」という生徒の実態から〔思考力、判断力、表現力等〕のA(1)ア「目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること」及びA(1)ウ「相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること」をねらいとして、自分の「おすすめの本」を紹介したり友達の紹介を聞いたりして、自らの読書生活を豊かにする単元を構成することとした。また、他学年でも同様の取り組みを国語の学習を通して行い、縦割り班を活用して「おすすめの本」を紹介し合いたいと考え本単元を設定した。

(3) 指導にあたって

本単元では〔思考力、判断力、表現力等〕Aの言語活動例ア「紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見を述べたりする活動」を重点的に指導する。そこで、単元の目標を達成するために、ビブリオバトルの手法を取り入れたいと考えた。ビブリオバトルとは、おすすめの本を持ち寄り、順番に本の紹介、発表に関するディスカッションをそれぞれ行った後、チャンプ本を決定する書評ゲームである。「おすすめの本」を紹介した後に質疑応答の時間が設けられており、生徒に話し手と聞き手の両方の立場を経験させるビブリオバトルは、本単元の言語活動に適した活動であると考えられる。さらに、ビブリオバトルの手法を用いることで、感想や意見を交流したり、読書体験を共有したりすることができ、生徒の読書の幅を広げ、読書の楽しみを膨らませることに期待できる。

本来のビブリオバトルは、話し方の巧拙で評価するものではなく「読みたい本かどうか」で評価するものである。しかし、本単元では〔思考力、判断力、表現力等〕のA(1)ア及びA(1)ウをねらいとするため、プレゼンテーションをする際やチャンプ本を選ぶ際に、話し方の巧拙も意識するように指導する。

また、自分の紹介内容を振り返って改善するために、プレゼンテーションを録画するなどICTをもつ「再現性」や「個別性」といった特徴を生かすための効果的なICT活用も行うこととする。

① 「なぜ」を大事にし、主体的に学ぶための手立て

自分が選んだ本をチャンプ本に選んでもらうために、どこをどのように紹介するかを考えながら本の魅力を探っていくビブリオバトルの活動は、生徒の主体的な学習といえる。生徒の「なぜ」を大事にするために、友達の紹介やモデルとする紹介は、「なぜ」読みたくなるのかを考える場を設定する。そして、考えたことをもとにして自分の紹介を改善していくことは、生徒の主体的な学びにつながると考える。

② 自分の考えを表現し、他者との関わりを通して協働的に問題を解決していく手立て

ビブリオバトルは、「おすすめの本」の紹介が一方通行にならないように、質疑応答の時間が設けられている。従って、自分の考えを相手に分かりやすく伝えるためには、話す内容を選び、思ったことや考えたことを適切に構成し、言葉遣いにも注意して表現しなければならない。また、聞き手からの予想外の質問に答えなければならないビブリオバトルは、他者との関わりを通して協働的に問題を解決するために適した活動であるといえる。ビブリオバトルの手法を用いることで、どのようにすれば相手に分かりやすく伝えることができるのか、相手の話を引き出すためにはどのような質問をすればよいのか等、他者と積極的に関わる意識も必要である。ビブリオバトルを通して、生徒に相手の反応を確かめながら生き生きと話したり聞いたりできる力と、豊かな人間関係を築いていくことのできる力を身につけさせたいと考える。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ)	① 「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ② 「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ)	① 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを進んで理解し、今までの学習を生かして本の魅力や感想を伝え合おうとしている。



## 5 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。</li> <li>○ビブリオバトルの映像を見て、ルールを確認する。</li> <li>○「おすすめの本」を選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの読書体験を振り返ったり、余裕を持って本を選べたりできるように1週間前から取組を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ビブリオバトルを行うことで読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。</li> </ul> [知・技] ①発表・シート
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「おすすめの本」のおすすめするポイントを、様々な観点からシートに書き出し、整理し、取捨選択する。</li> <li>○「おすすめの本」を紹介するプレゼンテーション原稿を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポストイットを利用して、自分の考えを可視化させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目的や相手に応じて、必要な情報を集めて、整理している。</li> </ul> [思・判・表] ①下書き原稿
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○プレゼンテーション原稿をもとに発表練習をする。</li> <li>○ペアで練習をし、アドバイスをし合い、自分の発表を練り直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成メモに、聞き手の反応を書かせるようにする。</li> <li>・聞き手の反応を想定して、プレゼンテーションをさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○聞き手の反応や質問を想定して、分かりやすい発表になっているか考えて話している。</li> </ul> [思・判・表] ②発表・シート
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループでビブリオバトルを行う。</li> <li>○チャンプ本を選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に作成したプレゼンテーションの構成メモをもとに発表させる。</li> <li>・タブレットで紹介の様子を撮影し、自分自身でその様子を確認できるようにしておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今までの学習を生かして本の魅力や感想を伝え合おうとしている。</li> </ul> [主] 発表・シート
5 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ビブリオバトル 2022 in AKITA」のプレゼンテーションを分析し、自分のプレゼンテーションを改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「聞き手に応じた語句の選択」「話す速度や音量」「言葉の調子や間の取り方」「言葉遣い」などに着目させ、相手に分かりやすく伝わる表現の工夫に気付かせる。</li> <li>・話合いで気付いた表現の工夫の中から、自分のプレゼンテーションに生かしたいことを意識して、具体的にプレゼンテーションを改善させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話合い活動を通して、伝えたい魅力が分かりやすく伝わるように表現を工夫している。</li> </ul> [思・判・表] ②発表・シート

6 本時の学習(5/5時間)

(1) ねらい

- ・聞き手の反応を踏まえながら、伝えたい魅力が分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。[思・判・表] ②
- (2) 学習過程

学習活動	形態	指導と支援	評価規準 評価方法 [観点] ☆努力を要する生徒への手立て
1 本時の学習の内容を確認する。	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもって活動するため、学習の内容とゴール提示し、本時の流れを明確にする。</li> </ul>	
2 「ビブリオバトル2022 in AKITA」の映像を見て、学習課題を設定する。	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像の中から、本の魅力が分かりやすく伝わるように表現を工夫している場面を選んで見せ、生徒が課題意識をもてるようにする。</li> </ul>	
<b>学習課題 「なぜ、あの人のプレゼンは本の魅力が伝わるのか？」</b>			
3 3人グループで「ビブリオバトル2022 in AKITA」の映像を見ながら、出場者のプレゼンテーションのよいところを話し合う。	グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「聞き手に応じた語句の選択」「話す速度や音量」「言葉の調子や間の取り方」「言葉遣い」などに着目させ、相手に分かりやすく伝わる表現の工夫に気付かせる。</li> <li>・欠点を見つけては、よさを見つけてよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆「聞き手に応じた語句の選択」「話す速度や音量」「言葉遣い」という観点を示し、話し合いをさせる。</li> <li>○「ビブリオバトル2022 in AKITA」のプレゼンテーションの表現で工夫しているところに気付いている。 [思・判・表] ②発表・シート</li> </ul>
4 グループでの話し合いの結果を発表する。	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合った内容をホワイトボードに書いて発表させる。</li> <li>・発表を聞く際は、自分たちの話し合いの結果と比較しながら聞くように助言する。</li> </ul>	
5 自分のプレゼンテーションを振り返り、話し合いで気付いた表現の工夫を意識して、プレゼンテーションを改善する。	個	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いで気付いた表現の工夫の中から、自分のプレゼンテーションに生かしたいことを意識して、具体的にプレゼンテーションを改善させる。</li> <li>・改善したプレゼンテーションをタブレットで録画させ、改善前のプレゼンテーションと比較させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話し合い活動を通して、伝えたい魅力が分かりやすく伝わるように表現を工夫している。 [思・判・表] ②発表・シート</li> </ul>
6 本時の振り返りをする。	個	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元を通して身に付いた力や、自分のプレゼンテーションで改善したことなどを具体的に書かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆自分のプレゼンテーションの映像を見返したり、練習の時の友達からのアドバイスを思い起こしたりさせる。</li> </ul>

# 第3学年A組 社会科学習指導案

指導者 丹波 新吾

## 1. 単元名 二度の世界大戦と日本

### 2. 単元の目標

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力、人間性等
<p>・ 経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解することができる。</p>	<p>・ 経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第二次世界大戦と人類への惨禍について多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p>	<p>・ 近代の日本と世界について、課題をつくり、予想や学習の見通しをもちながら学習課題を追究しようとする。</p> <p>・ 大戦が人類全体に及ぼした惨禍を知ることを通して、平和な世の中について追究しようとしている。</p>

### 3. 生徒と単元

#### (1) 生徒について (男子11名、女子20名 計31名)

学習意欲が高い生徒が多く、学習内容を理解しようと真剣に授業に取り組んでいる。3年生になったことで、最上級生としての自覚が表れ始め、積極的に発言しようとする生徒が増えている。

太平洋戦争についてとったアンケートでは、太平洋戦争中に起こった出来事をいくつか知っている程度であり、何も知らない、覚えていないと答える生徒もいた。たくさんを答えられる生徒でも、太平洋戦争が始まった原因や、人々に与えた影響については、詳しくは答えることができなかった。

#### 太平洋戦争に関するアンケート結果

- ① 太平洋戦争について小学校で学習したことは？
- ② 太平洋戦争について知っていることは？

戦争の経緯に関すること	国民生活への影響に関すること。
原子爆弾(核爆弾)、真珠湾攻撃、ポツダム宣言、日本が負けた(8/15)東京大空襲、神風特攻隊、ひめゆり学徒隊、玉音放送	ぜいたくは敵だ、疎開、食糧難、赤紙、爆弾によって建物や人に被害があった

#### (2) 単元について

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年告示)歴史的分野の大項目「C 近現代の日本と世界」の中項目「(1) 近代の日本と世界」の一部を題材として取り扱うものである。アの(ア)～(エ)までを近代の前半として単元を構成し、(オ)、(カ)を近代の後半として単元を構成する。また、内容のまとまりに着目し、(オ)、(カ)をそれぞれにわけて単元の学習課題を設定し、小単元を構成する。

本単元は、経済の混乱を受け、各国の置かれた状況の違いからドイツやイタリアでファシズム勢力が台頭し、二度目の戦争を防ぐことができず、多くの死者を出した時代を取り扱ったものである。起こった出

来事を羅列したり、戦争が引き起こす凄惨な被害を理解したりするのではなく、戦争に向かう過程で、国民が受けた影響について学ぶことで国際協調と国際平和の実現に努める姿勢をより強く養うことができると考える。

本時では、玉川の水が田沢湖に流入し、田沢湖のクニマスが絶滅した社会的事象を取り扱う。昭和9年に東北地方を襲った未曾有の凶作によって、飢餓の発生や、口減らしのための子どもの身売りなどの社会問題が起きた。玉川の水が田沢湖に流入されることになった理由は2つある。田沢疎水を引くことで仙北平野に水田を増やし、食料を確保しようというねらいが1つ目である。2つ目は、戦時下において石炭等の資源が重要になるため、貴重な国内の電力を生保内発電所の水力発電で確保するねらいである。そうして行われた政策が様々な人々の生活を大きく変えたことを学び、戦争による影響が自分たちの周りにもあり、今現在でもその影響が続いていることを実感させることで、平和の大切さをより強く思うことができると考える。

### (3) 指導にあたって

単元の目標を達成するために、以下のように段階を踏んで学習を進めていく。

前小単元の学習で、世界平和を目指し、国際連盟が作られたことを学んだ。本単元の導入では、第二次世界大戦の視覚資料を用いて二度目の大戦が起こったことを確認し、前小単元の学習を踏まえながら「世界平和を目指したのになぜ第二次世界大戦は起こり、世界や日本にどのような影響を与えたか。」という問いを生徒から引き出し、単元の学習課題とする。単元の前半部分は、世界恐慌への各国の対応が、それぞれの置かれていた状況によって異なり、その中でファシズム勢力が台頭してきたことを学習する。また、日本国内においても、政党政治に行き詰まり、軍部が台頭し、国家総動員法の制定などによって、国民生活に食糧の不足や、電力の不足などの影響を及ぼし、第二次世界大戦、太平洋戦争に向かっていった時代背景を学習する。単元の後半では、第二次世界大戦や太平洋戦争が世界中に大きな被害をもたらしたことについて学習し、国際平和に寄与する態度を育みたいと考える。

本単元では、一単位時間で学習した社会的事象と単元の学習課題とのつながりを生徒が意識しやすくなるように単元の学習課題と生徒の予想、一単位時間の学習の関連が一目で分かるように配列した単元シート活用する。単元シートには、生徒の振り返りの場面も設定しており、学びへの見通しや、学びの振り返りがしやすくなるように工夫した。

#### ① 「なぜ」を大事にし、主体的に学ぶための手立て

生徒の「なぜ」を大事にするために、単元の学習課題を設定し、生徒に戦争が起きた理由や、世界や日本への影響について予想を立てさせたり、どのようなことを学べば単元の学習課題の解決に迫れるかを考えさせたりする。そしてそれらを基に単元の学習計画を決定する。単元の間での振り返りでは、自分や友達が考えた予想や学習の見通しの妥当性を検証したり、この後の学びの方向性を考えたりすることで、生徒の主体的に学びにつながると考える。

#### ② 自分の考えを表現し、他者との関わりを通して協働的に問題を解決していく手立て

課題解決に向けて活動する際には、個で考える時間、グループで意見交換する時間、全体で共有する時間を設け、自分の意見と他者の意見を比較し、参考にしながら、取り組むことができるようにする。

また、本時では、政府、クニマス漁師、国民の三者の意見を比較するために、Yチャートを用いて、生徒の思考をまとめさせたい。

1. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知①経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動きなどを基に、軍部の台頭から戦争までの経過について理解している。</p> <p>知②中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。</p>	<p>思経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第二次世界大戦と人類への惨禍について近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	<p>主①第二次世界大戦が起こった原因や、世界や日本に与えた影響について、課題をつくり、予想や学習の見通しをもちながら学習課題を追究しようとしている。</p> <p>主②大戦が人類全体に及ぼした惨禍を学ぶことを通して、平和な世の中について追究しようとしている。</p>

2. 単元の指導計画 (○・・・「評定に用いる評価」、●・・・「学習改善につなげる評価」)

	ねらい	教師の支援	評価規準
1	既習事項や資料をもとに単元の学習課題をつくり、単元の学習に見通しをもつことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前の小単元での学習内容を想起させ、国際連盟による国際平和が実現されなかった理由について問う。</li> <li>・動画を視聴し、第二次世界大戦が起こったことを確認する。</li> </ul>	<p>●第二次世界大戦が起こった原因や、世界や日本に与えた影響について、問いを見出したり、予想したりしている。</p> <p>【主①】単元シート・発表</p>
<p>〈単元の学習課題〉</p> <p>世界平和を目指したのになぜ第二次世界大戦は起こり、世界や日本にどのような影響を与えたか。</p>			
2	アメリカやイギリス、フランスが世界恐慌による不景気を乗り切ろうとした政策について理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界恐慌を乗り切るために各国がとった政策の背景を第一次世界大戦後の国の経済の状況や、植民地の支配状況などと関連付けて考えさせる。</li> </ul>	<p>●世界恐慌がアメリカやイギリス、フランスに与えた影響とその対策を理解している。</p> <p>【知①】ノート記述・発表</p>
3	ドイツやイタリアで、世界恐慌に対する政府への不満を利用しながらファシズムが台頭してきたことを理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシズム勢力が台頭した原因を第一次世界大戦後の国の経済の状況や、植民地の支配状況などと関連付けて考えさせる。</li> </ul>	<p>●世界恐慌がドイツやイタリアに与えた影響とファシズムが台頭した経緯を理解している。</p> <p>【知①】ノート記述・発表</p>

4	関東大震災や世界恐慌、東北地方や北海道での大凶作などによって日本国内の経済が悪化し、社会不安に包まれたことを理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界恐慌が日本に与えた影響を欧米諸国と比較させながら考えさせる。</li> <li>当時の新聞記事を用い、社会不安の様子を実感させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界恐慌に加え、凶作などによって、労働爭議や小作爭議が増えるなど、日本国内が社会不安につつまれていた様子を理解している。</li> </ul> <p>【知①】 ノート記述・発表</p>
5	満州事変や五・一五事件、二・二六事件などを通して、徐々に軍部が政治に対する発言力を強めたことを理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>この時期に起こった出来事を年表にまとめさせ、軍部の発言力が高まり、政党政治が終焉に向かっていったことをつかませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>軍部の発言力が高まり、政党政治が終焉に向かったことを理解している。</li> </ul> <p>【知①】 ノート記述・発表</p>
6	日中戦争が長期化し、戦時体制が整えられていったことを理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料をもとに、戦争が長期化することが日本に与える影響について考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日中戦争が長期化し、国内で戦時体制が整えられたことを理解している。</li> </ul> <p>【知①】 ノート記述・発表</p>
7 (本時)	太平洋戦争に向かう時期の社会や生活の変化に着目して、田沢湖に玉川の水を引き入れることに対する様々な立場の人の考えを資料を基に考察することを通して、近代の社会の変化の様子について表現することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>玉川の水を田沢湖に流入させることを決定した国の立場、クニマス漁師65戸の立場、その他の日本国民の立場から多角的に考察させることで、戦時下の様子について気付かせる。</li> <li>流入させることを不安に思っていたクニマス漁師たちが1戸あたり1000円の補償金で妥結したことについて、資料を使って考えさせ、戦時下において我慢を強いられたことをつかませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦争に向かう時期の社会や生活の変化、クニマス漁に従事していた人々の考えを関連付け、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul> <p>【思】 ノート記述・発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第二次世界大戦が起こった時代背景について、自らの予想と比較しながらこれまでの単元の学習を振り返っている。</li> </ul> <p>【主①】 単元シート</p>
8	ファシズム勢力の拡大によって、第二次世界大戦が起こり、ドイツによる戦争被害が拡大したことを理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファシズム国家の侵略の様子が分かるよう、ヨーロッパの地図を用い、最大勢力範囲を確認させる。</li> <li>映像資料を用いて当時の様子をつかませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第二次世界大戦が起こり、世界各地に凄惨な被害が出たことを理解している。</li> </ul> <p>【知②】 ノート記述・発表</p>
9	日中戦争の長期化を背景に、ドイツ・イタリアと同盟を結び、資源を求めて南進し、アメリカとの太平洋戦争に発展したこ	<ul style="list-style-type: none"> <li>南進についての理解が深まるように、地図を使って、日本軍の動きを追わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日中戦争の長期化を背景にアメリカとの太平洋戦争に発展したことを理解している。</li> </ul>

	とを理解することができる。		【知②】ノート記述・発表
10	戦争の長期化や、本土への空襲などによって、国民の生活に大きな変化や犠牲が生じたことを理解することができる。	・田沢疎水の工事に女性が従事している写真から、秋田県の男性も戦争に向かっていったことを理解させる。	●戦時下の国民生活について理解している。 【知②】ノート記述・発表
11	第二次世界大戦中の世界の動きと日本の動きに着目しながら、大戦が終結するまでの過程をまとめる活動を通して、人類に多くの犠牲があったことを多面的に考察し、表現することができる。	・本土への空襲、沖縄戦、原子爆弾による被害を過去の戦争と比較し、被害の大きさを理解させる。	●大戦が終結するまでに、人類に多くの犠牲があったことを多面的に考察し、表現している。 【思】ノート記述・発表
12	小単元の学習課題について、世界恐慌が各国に影響を与え、第二次世界大戦を引き起こし、多くの被害をもたらしたことから表現することができる。	・一単位時間ごとにとった学習メモを参考にさせ、小単元の学習課題に対するまとめを考えさせる。	○本単元で学習したことを踏まえ、第二次世界大戦と人類への惨禍について近代社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 【思】単元シート ○第二次世界大戦が起こった時代背景や、世界や日本への影響を自らの予想と比較しながら単元全体の学習を振り返っている。 【主①】単元シート
<p>〈単元の学習課題のまとめ〉</p> <p>世界恐慌が起こり、各国は対応に追われたが、第一次世界大戦で敗戦して植民地をすべて解放したドイツやイタリアでは、不景気への国民不安を利用したファシズム勢力が台頭した。また、日本では、世界恐慌や、東北地方を襲った大凶作によって、政党政治に行き詰まりをみせていた。同時期に満州事変や五・一五事件、二・二六事件が発生して、軍部の発言力が増していたなかで、日中戦争に突入した。日中戦争が長期化するなかで戦時体制が整えられ、国民生活も制限されていった。資源を求めた日本と、侵略を止めようとするアメリカによって太平洋戦争が起こった。戦争では、日本国内のみならず、占領下、支配下にある国でも大きな被害が出た。</p>			
13	単元の学習課題について、二度の大戦が世界や日本に与えた影響をまとめ、平和な世の中を追究することの大切さについて、表現することができる。	・前の小単元と本小単元のまとめを基に、単元のまとめを書かせ、国際平和について、自らの考えを書かせる。	○二度の大戦が人類全体に及ぼした惨禍を学ぶことを通して、国際平和について追究しようとしている。 【主②】学習シート

5. 本時の学習 (7/13)

- (1) ねらい  
 ・太平洋戦争に向かう時期の社会や生活の変化に着目して、田沢湖に玉川の水を引き入れることに対する様々な立場の人の考えを資料を基に考察することを通して、近代の社会の変化の様子について表現することができる。(思考・判断・表現)
- (2) 事前指導  
 ・光村図書 『幻の魚は生きていた』(中坊哲治)を読ませ、過去に田沢湖のクニマスが死滅した事実、理由をつかませておく。
- (3) 学習過程

学習活動	形態	指導と支援	○評価規準(評価方法)【観点】 ☆努力を要する生徒への手立て
1. 2010年に西湖でクニマスが見つかったこと、過去にクニマスが田沢湖で全滅した事実や理由を確認する。	全体	田沢湖に玉川の水を入れることを当時の人々がどう捉えていたか問う。	
2. 学習課題を作る。	全体	田沢湖に玉川の水を引き入れることを当時の人たちはどのように捉え、最終的な合意に至ったのか。	
3. 当時の人々の思いについて資料を基に考え、Yチャートにまとめる。	個	・政府、クニマス漁師、その他の国民の立場から考えるように指示する。	☆電力の使い道や、凶作に苦しんでいた人々の生活を考えられるよう、既習事項を振り返らせたり、資料の着眼点を与えたりする。
4. まとめたことを全体で確認する。	全体	・確認したことを基に、それぞれの立場の共通点や相違点に着目して比較させる。	
5. 最終的な合意に至った理由を、資料を基に考える。	グループ	・日中戦争や国家総動員法に気付くことができようように年表を用意する。	☆補償金であった68000円(1戸あたり約10000円)が今のいくらになるか、当時のクニマスの取引レートを示し、十分なお金ではないことに気付かせる。
6. 考えたことを発表する。	全体	・戦時体制とともにクニマス漁師の考えが変化していったことに着目させる。	
7. 学習課題についてまとめる。	個	凶作に備え、戦争に必要な電力の確保のために、政策を施行したい政府と、自らの生活や伝統のためにもクニマス漁を守りたい漁師たち、食糧増産で生活を豊かにしたいその他の国民と、立場によって意見は異なっていたが、日中戦争が長期化し、国家総動員法が制定され、国民の意識も戦争に向かっていたなかで、漁師たちも政府と妥結し、合意に至るなど、戦時体制が強くなっていった。	○戦争に向かう時期の社会や生活の変化、クニマス漁に従事していた人々の考えを関連付け、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【思】ノート記述・発表
8. これまでの単元の学習状況について振り返る。	個		○第二次世界大戦が起こった時代背景について、自らの予想と比較しながらこれまでの単元の学習を振り返っている。【主】単元シート



## 総合的な学習の時間 学習指導案

指導者 利 敬一郎  
長 沢 留美子  
小 松 裕 太

### 1 単元名 創造学 秋田活性化プロジェクト

#### 2 単元の目標

- ・秋田を活性化させるための課題を設定し、収集した情報を取捨選択し、分かりやすい方法で表す技能を身に付けている。(知識及び技能)
- ・秋田を活性化させるために考えた提案を、根拠を明らかにして他者に分かりやすく説明する活動を通して、秋田の活性化のための新たな課題を考えることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- ・秋田の活性化のために、他者と目標を共有し、ともに力を合わせて活動しようとしたり、自分でできることを考えて行動しようとしたりする。(学びに向かう力、人間性等)

#### 3 生徒と単元

##### (1) 生徒の実態

明るく素直な生徒たちである。人前で発表したり表現したりすることを得意とする生徒が比較的多い。活動の前に取った、「秋田のよさは何か」というアンケートでは、「なまはげ、きりたんぼ、自然」といった答えが多く、秋田についての知識があまり豊富ではない。生徒たちは、各出身小学校で地元の歴史・文化・産業については触れてきているものの、秋田全体についての思いや関心はあまり高くないことが伺える。

##### (2) 単元について

本校は総合的な学習の時間を「探究 Jr.」と名付け、第1学年では「郷土学」、第2学年では「創造学」、第3学年では「未来学」と称して、系統立てて取り組んでいる。教科の枠を超え、獲得した知識・技能を活用し、課題や問題の解決に取り組むことで思考力・判断力・表現力を高めていく。また今年度、本校高校の探究・国際部と共通のテーマ「Well-Being」を設定した。このテーマは、「みんなの幸せのために自分たちができること」を意味し、6年間を見通して系統的・体系的に取り組んでいく。

本単元の「創造学」では、地域の産業を調べる活動を通して、社会の一員としての自覚を高めるとともに、自らの進路を主体的に考える態度を培うことを目標にして取り組んでいる。「秋田活性化プロジェクト」と名付けて、秋田の素材を生かしたものづくり、情報発信を通して、「秋田」のよさを再発見し、自分の職業観、生き方へのヒントにしていく。

探究 Jr. 発表会Ⅱの全校発表会では、「創造学」の探究活動について発表する。自分や他学年の人たちの研究内容を参考にしたり、プレゼンテーションや質疑応答のスキルを向上させたりする。学年発表会では、今回の探究活動に携わっていただいたゲストティーチャー(以下GT)の方々にも、発表を参観・講評をしていただくことを通して、これまでの探究活動の成果と課題を整理し、来年度の「未来学」につなげられるようにする。

(3) 指導にあたって

① 「なぜ」を大事にし、主体的に学ぶための手立て

初めに、「秋田県」を出発点にしたウェビングを行い、「秋田県」について見つめる機会を設けた。次に、「秋田県」の課題について考え、秋田をより活性化させるために自分ができるなこととして、秋田県の素材を使った物を自分たちで開発し、清陵祭で販売したり、給食のメニューとして提供したりしてはどうかというアイデアが出た。そこから、秋田県の食材を盛り込んだ「食部門」、秋田県の自然を盛り込んだ「アクセサリー部門」、開発した品物を包む「パッケージ部門」、開発した品物をより多くの人たちに広める「宣伝部門」の4つの部門を設定した。また、それらの中から生徒の興味がある部門を選ぶことができるようにして、生徒たちが主体的に活動できるようにした。

② 自分の考えを表現し、他者との関わりを通して協働的に問題を解決していく手立て

生徒たちは、上記の4つの部門に分かれた後、個人テーマを設定した。その個人テーマを解決するために、同じ部門の人たちとの意見交換、栄養教諭からの食のアドバイス、弁当屋を営む方との商品開発、アクセサリー製作者との商品開発など、様々な方々と関わりながら協働的に活動できるようにした。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①個人テーマの解決に必要な情報を収集したり、外部の人材を調査・選定し、打ち合わせや体験活動を行ったりしている。</p> <p>②それぞれの部門で、清陵祭に向けた活動や商品開発を行っている。</p> <p>③秋田の活性化のために自分ができることを実行することが、社会参画につながることに気付いている。</p>	<p>①ウェビングを通して、秋田県のよさや課題を出し合い、秋田の活性化に向けたキーワードを考えている。</p> <p>②探究 Jr. 発表会Ⅰに向けて、個人テーマや制作予定の紹介などを、分かりやすく発表している。</p> <p>③これまでの活動を整理し、探究 Jr. 発表会Ⅱに向けた準備・練習を行い、秋田の活性化に向けた提案をしている。</p> <p>④秋田の活性化のための提案をまとめたり、新たな課題を発見して来年度の2年生の活動へのアドバイスを考えたりしている。</p>	<p>①自分の興味のある部門を選択し、個人テーマの解決に向けて活動しようとしている。</p> <p>②部門の人たちと協力して活動しようとしたり、自分にできることを考えて行動しようとしたりしている。</p>

5 単元の指導計画（総時数40時間）

小単元名（時数）	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 秋田の活性化のために自分ができる取組について考えよう。 (14)	・秋田県のよさや課題を出し合い、秋田の活性化に向けた今後の活動への見通しをもつ。		①		・発言 ・ワークシート
	・自分の興味のある部門に分かれて、個人テーマを設定する。			①	・ワークシート
	・個人テーマ解決に必要な外部の人材を調査・選定し、打ち合わせを行う。	①			・発言
	・探究 Jr. 発表会 I に向けて、個人テーマや製作予定の紹介などを、分かりやすく発表する。		②		・発表スライド ・発表
2 秋田の活性化のための活動に取り組みよう。 (20)	・部門の活動を行う。 食：清陵祭で販売する弁当やデザート、給食のメニューの内容を考案する。 アクセサリー：横手の素材を盛り込んだアクセサリーを製作する。 パッケージ：弁当・デザートのパッケージをデザインする。 宣伝：活動の様子を紹介する学校ブログや給食だよりを作製する。	②		②	・製作品
	・これまでの活動を整理し、探究 Jr. 発表会 II に向けた準備・練習を行い、秋田の活性化に向けた提案をする。 ※本時 第38時		③		・発表スライド ・発表
3 取組を振り返り、自己の考えをまとめ、秋田の活性化の提案をしよう。(2)	・単元を通して学んだ記録を振り返り、秋田の活性化のための提案をまとめたり、来年度の2年生の活動へのアドバイスを考えたりする。	③	④		・提案書 ・アドバイス用紙

6 本時の学習 (38 / 40)

(1) ねらい

- ・他者の発表を聞いたり、秋田の活性化についての話し合いをしたりすることを通して、秋田の活性化の提案を考えることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

(2) 学習過程

学習活動	形態	教師の支援と評価	資料・準備
1 本時の学習のねらいを確認し、活動の見通しをもつ。	全体	・進行役がスムーズに進行できるように打ち合わせを行っておく。	・進行原稿
学習のめあて 4つの部門の発表を聞き、秋田の活性化への提案を考えよう。			
2 4つの部門の発表を聞き、意見や感想の交流をする。 ・発表時間は1人5分間 (発表3分+質疑応答2分) ・パワーポイントを使っでの発表	全体	・発表者には事前に、学年の発表の振り返りを生かした発表ができるよう、助言しておく。 ・フロアには、視点をもってプレゼンテーションを聞くことができるように、学習シートを用意する。	・タブレット ・学習シート
3 グループに分かれて、秋田の活性化への提案を話し合う。	グループ	・GTには、適宜話し合いに入って、意見やアドバイスを伝えてもらうよう打ち合わせを行っておく。 ・意見が出ない時は、進行役に近くの人と意見交換するなどの指示を出すよう助言する。	・ホワイトボード
4 各グループから出た提案を聞く。	全体	他者の発表を聞いたり、秋田の活性化についての話し合いをしたりすることを通して、秋田の活性化の提案を考えることができたか。 (話し合い、評価カード) 【思考・判断・表現】	
5 GTからの講評を聞く。		・GTには、秋田の活性化への提案についての講評と、秋田の将来を背負って立つ役割の期待を伝えてもらうよう、打ち合わせを行っておく。	
6 本時を振り返る。		・来年度の「未来学」への意欲が高まるように、これまでの生徒の活動を称賛する。	・振り返りシート

## 子どもが心を開くアプローチ

スクールカウンセラー 佐藤 さゆ里

### 1. はじめに ～この3年のカウンセリングでの出会いから～

#### <生徒の特徴>

- ・一番の魅力は「すなおさ」
- ・言葉の美しさ・・・価値観
- ・対人関係の長期の縛り  
同年代、家族など 過去の傷が今もリアルに縛りとなって存在  
→ しかし、希望は持ち続けている
- ・他者の非難 く 悲しさ、さみしさ、自己否定
- ・控え目思考、控え目スキル  
→ 自己信頼の背中押し

#### <先生方の特徴>

- ・コンサルテーションの充実  
→ 安心して次回まで過ごすことができる
- ・共に喜び、共に悲しむ感覚  
→ 柔軟な思考、行動

### 2. 子どものためになる教師のアプローチ

#### ① ラベリングからの解放

- この生徒は～な生徒だ
- 本当に？
- ラベリングは生徒を縛る。  
適切なアセスメントによる柔軟な対応が子どもの変化を生み出す。  
ぜひ存在へのOKサインを。

#### ② 教師の視点

- 一元化 よりも 多元的視点で  
→ クラスの生徒、気になる生徒を、どんな視点で感じていますか

#### ③ 年齢扱いだけではもったいない

- 対人関係の傷つきから、心理的発達はまだまだ昔の発達課題で止まらざるを得なかった  
生徒たちも見受けられる
- 年齢だけでアプローチしても難しい
- 止まらざるを得なかった過去がある子どもたちをどう見守り、支援するか

④ ソーシャルスキルのモデル

→ ありたい自分になるためには、相手に正しく自分を発信する力が必要

→ 最も身近なモデルの一人が教師（してみせて～）

例：話の聞き方

⑤ 自分自身の認知のふりかえり

「困った子」「困った親」ではなく、「困っている子」「困っている親」

→ 自分しか、自分を信じる人がいない人生は揺らぎやすい

→ 真の I am OK ではないため、他者への攻撃につながりやすい。

⑥ 言葉の技術

信念や思考は、選択する言葉に影響を与える

→ 子どもたちのスイッチが入るのはどんなとき？

プレゼントする言葉も、子どもたちを幸せに導く

→ 幸せに満ちた人は、幸せを周りに提供できるようになる

→ お互いに幸せな人間関係の構築の仕方の学習へ

3. 先生方へ

生徒たちは、今日も一生懸命自分の人生を歩んでいます。今日を迎えるまでのどの過去も、今の自分たちをつくる大切な時間だったはずです。しかしそう思えるためには、一緒に不安や悲しみを共感し、漂ってくれる人と出会えたかどうか大きな鍵を握ります。

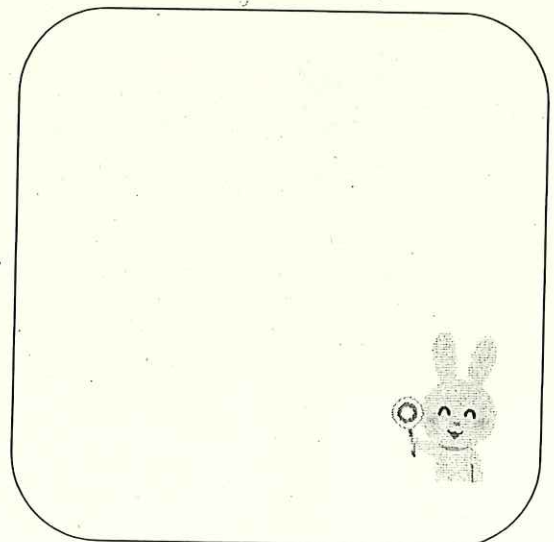
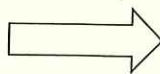
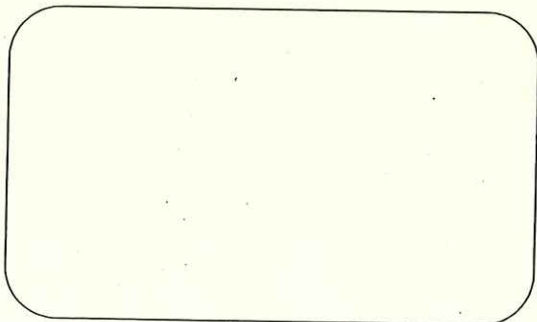
清陵の生徒たちのすなおさは強みです。子どもたちが、自分の過去を堂々と振り返られるお手伝いができるのも、教師のやりがいの一つかもしれません。今後もいい子どもたちと、いい先生の出会いが積み重なりますように・・・

---

プラスメッセージ シート

自分のこんなところが気になるなあ・・・

でも、見方を変えると・・・



## 探究活動について

### 1 研究テーマ

一昨年度までは、Akita グローバルネットワーク事業に本校高校普通科が指定されており、「「こどものしあわせ」～未来へつなぐ課題へのアプローチ～」というテーマにSDGsを目指した探究活動を行っていた。昨年度から対象範囲を「こども」からより広く、SDGsという開発目標も重要であるが、より共同体や2031年以降にも目を向けたテーマ設定に変更した。すなわち、中学校・高等学校に「Well-Being」という、学校テーマを新たに掲げて活動を行った。表1に本校、中学校、高校の総合的な探究（学習）の時間の種別を示す。また、探究活動を象徴するロゴマークを中学校、高等学校、中学校・高等学校用に三種類設けた（図1～3）。同時にサブテーマを設定した。中学校は「Well-Being 私のスコープ」、高校は「Well-Being 未来へのコンパス」とし、授業スライドや配布プリント、スクールカレンダー等に掲載し探究活動に関する関心と興味がたまるように努めた。

表1. 横手清陵学院中学校・高等学校の探究種別

	中学校	高校		
		普通科		総合技術科
		グローバルコース	地域文化コース	
1年	探究Jr. 郷土学	探究基礎		探究基礎
2年	探究Jr. 創造学	探究		探究
3年	探究Jr. 未来学	—	探究発展（※）	課題研究

※令和6年度から実施予定

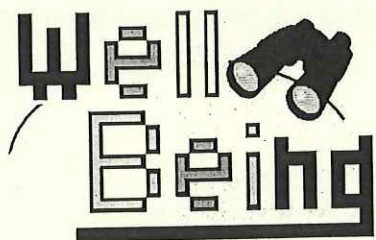


図1. Well-Being私のスコープ  
(中学校ロゴ)

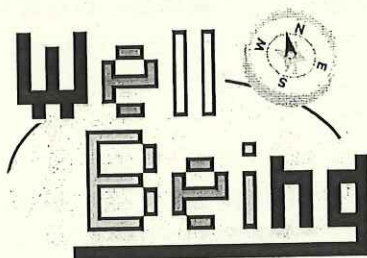


図2. Well-Being未来へのコンパス  
(高校ロゴ)

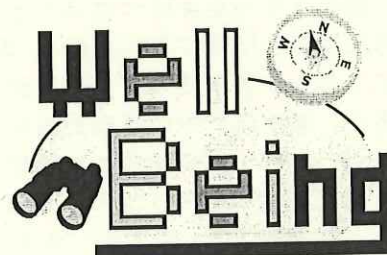


図3. Well-Being  
(中高協働ロゴ)

### 2 活動報告

#### (1) 中学校「探究 Jr.」

総合的な探究の時間「探究 Jr.」と称し、中学1年生「郷土学」（2単位）、中学2年生「創造学」（2単位）、中学3年生「未来学」（2単位）として運用し、「Well-Being」を共通テーマに、探究活動を行う。また、中学校は「Well-Being 私のスコープ」というスローガンを踏まえ、地域と日本の社会を見つめ、地域社会との関わりの中で探究研究を行う。

月	取り組み内容		
	中学1年生	中学2年生	中学3年生
4月	○オリエンテーション ○小学校で学んだことをまとめよう	○オリエンテーション	○オリエンテーション
5月	○県南の「ものづくり」企業	○秋田活性化プロジェクト	○創造学で学習したことを

	を調べよう	○職場体験学習の準備をしよう	広げよう
6月	○探究 Jr. 発表会 I の準備をしよう		○自分を見つめよう ○希望する職業から見た秋田県の現状
7月	○探究 Jr. 発表会 I ○探究 Jr. 発表会 I 振り返り	○探究 Jr. 発表会 I ○探究 Jr. 発表会 I 振り返り	○探究 Jr. 発表会 I ○探究 Jr. 発表会 I 振り返り
8月 9月	○職業インタビュー新聞をつくろう	○秋田活性化プロジェクト ○大学、工場見学をしよう	○修学旅行の計画を立てよう
10月	○成瀬ダム見学をしよう		○自己プレゼンの準備をしよう
11月	○探究 Jr. 発表会 II の準備をしよう ○企業博覧会	○探究 Jr. 発表会 II の準備をしよう ○企業博覧会	○探究 Jr. 発表会 II の準備をしよう
12月	○探究 Jr. 発表会 II ○探究 Jr. 発表会 II 振り返り	○探究 Jr. 発表会 II ○探究 Jr. 発表会 II 振り返り	○探究 Jr. 発表会 II ○探究 Jr. 発表会 II 振り返り
1月 2月 3月	※グローバルコミュニケーション	○修学旅行の計画を立てよう	○自分が描く未来 ○立志式に向けての決意表明

## (2) 高校1年生「探究基礎」

2年生の「探究」に向けて、個人探究を行った。生徒個々が自分の力で探究プロセスを経験することで探究スキルを身につけることを目標とする。興味関心から研究テーマを設定し、中間発表会で多角的な視点と批評する力を持ち、研究内容をスライドとしてまとめ自由すぎる研究 EXPO に全員が応募予定である。次年度のグループ活動をスムーズに進めるために、グループ分け先行事例の調査、まとめを経て、春季休業中の活動計画を立てた。

指導者 高等学校1年部教員 3名、1年部 1名

教材 スタディサプリ探究講座 探究思考ブック、興味研究ワーク BOOK

活動概要 4～7月 スタディサプリ探究講座を活用し、課題の設定について学ぶ。

8月 (夏休み課題) 「活動と中間発表会への準備。」

8～11月 中間発表、探究強化会(教員の前で中間発表の振り返り)。

11月 強化会を踏まえての探究活動

12月 探究 EXPO 応募資料作成

1月 探究 EXPO 応募資料作成

2月 外部講師による講話(学用品おさがりの会 近様)

次年度へ向けて

3月 自己評価、グループ分け

次年度へ向けてのテーマ設定について

スタディサプリ探究講座を利用し、興味関心から探究プロセスを学ぶ。この課程で興味関心事が社会の中でどの位置にあり、自分とどのような関わりがあるのかを考えさせる。Well-Being の内容を確認することで①世界の現状と課題、②世界の抱える課題と自分たちの生活の関わり、③「こどものしあわせ」のために解決すべき課題、について意識させる。単なる調べ学習にならないように、検証方法は2種類以上で取り組むこととした。長期休みに課題を課し、普段の生活の中で社会とのつながりを意識させ途切れさせないように働きかけた。



### (3) 高校2年生「探究」

「WELL-BEING」をテーマに、関心のあるSDGs目標でグループ編成し、グループ探究を行った。

対象生徒	高等学校2年生普通科 全員
時期	通年 2単位
指導者	高等学校教員 10名
教材	スタディサプリ 課題発見ワークブック
活動概要	4月 研究テーマの検討 5月 仮説の具体化、計画書の作成、計画に基づいた調査 6月 仮説と計画の発表（再検討） 7～8月 計画に基づいた調査・検証（県庁出前講座） 9月 中間発表 10月 計画に基づいた調査・検証 11月 探究発表会 12月 ポスター制作（グループ・個人） 1～2月 グロ文理：論文作成のための講座 （グロ理：2月6日 サイエンス・ダイアログ） 地文：次年度の「探究発展」に向けた調査 （地文：探究発展に向けた講話「学用品お下がりのお会代表近千穂様」） 3月 振り返り

昨年度の「探究基礎」では興味関心型の個人探究を行った。そこで探究活動の流れを各個人が体験し、その上で今年度の地域課題解決型探究にグループで取り組んだ。どのグループも始めに考えたテーマ・仮説から活動を進めていく中で少しずつ変化していった。外部とのやりとり（インタビューや出前講座などのフィールドワーク）のなかで新たに知ることや考え（今までの知識）の更新が行われたようだった。

今年度は担当職員をグループに固定せずに進めた。様々な先生からの助言をいただき、何を選択していくのかを自分たちで考えながら進めたため時間がかかった。だが、歩みは遅くとも自分たちで少しずつ課題を切り崩していく感覚を持てたことは成果だと思う。先生という立場の人が発する言葉が正解だと生徒が感じてしまうことはこの活動の妨げになる。大人の様々な考えから自分たちが求める事柄を見つけ、考えをさらに深めて自分たちで納得できる答えを導き出すことがねらいだからだ。その点では活動結果的に物足りないが、生徒は達成感を感じることが出来たようだ。

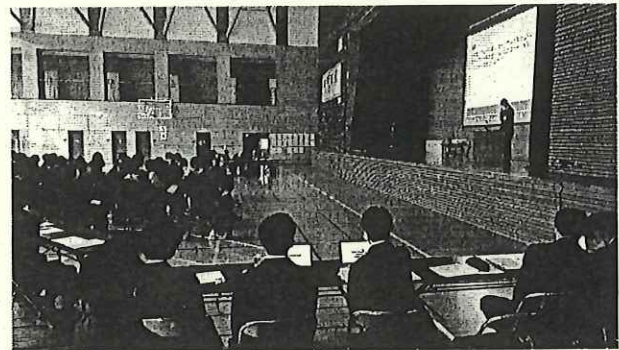
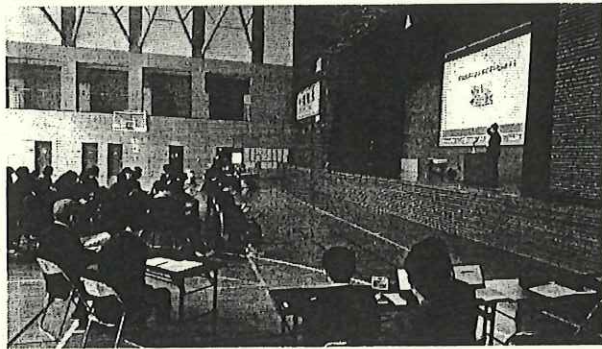
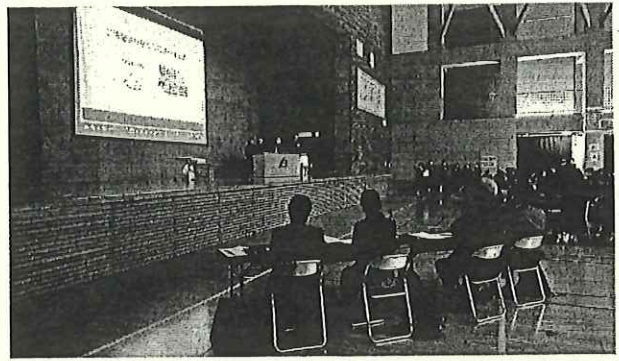
探究発表会は、全てのグループがプレゼンテーションでの発表を行った。助言者として3名の方をお招きした。それぞれ違う立場からNPOと関係がある方たちで、丁寧な助言をいただくことが出来た。

発表会終了後は探究活動をグループと個人でポスターにまとめた。

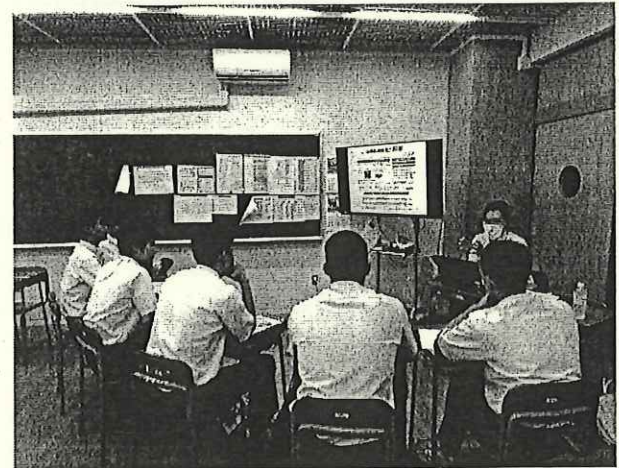
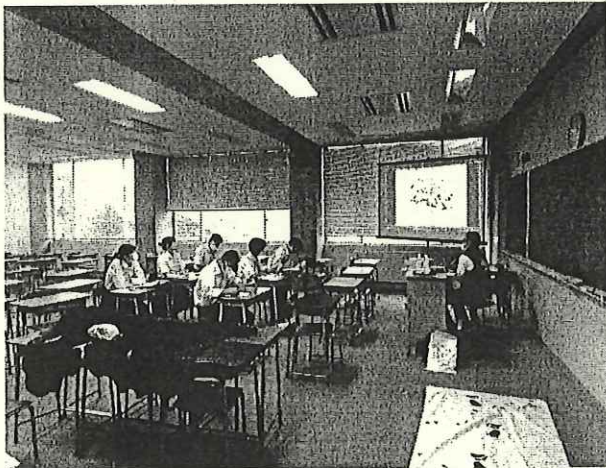
その後、コース毎に別れての活動となる。グローバル（文・理）コースは次年度の弘前大学太宰治記念「津軽賞」に出品するために小論文の作成。地域文化コースは次年度の「探究発展」に向けたグループ編成と情報収集、テーマ・仮説の決定を行った。

令和5年度 2年普通科「探究」

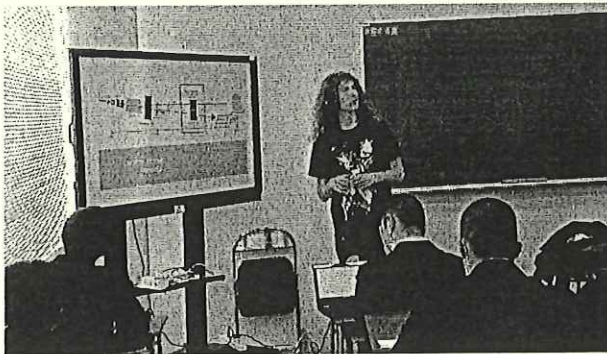
15 班	問い	ほこりの生成原因とは？
	きっかけ	ほこりのでき方をネットで調べたところ、ネットによって記述の内容が異なっていることがわかった。本当の原因は何か突き止めるため、研究をすすめることにした。
	仮説	光電効果と構造が関係している。
3 班	問い	政治に興味を持つ女性を増やすには。
	きっかけ	女性議員が少ないため、女性視点の意見が反映されにくいと感じたから。
	仮説	ポスターで呼びかけることで、政治に興味を持つ女性が増えるのではないかな。
5 班	問い	横手市の子育て支援制度をより認知してもらうための解決策はどのようなものがあるだろうか。
	きっかけ	横手市の少子高齢化に注目したときに、子育て支援制度が充実していないのではないかと考えたから。
	仮説	ポスターを作ることで、子育て支援制度をより認知してもらえるのではないかな？
2 班	問い	視覚障害者に対する健常者の理解を高めるためには？
	きっかけ	視覚障害者が外を歩きやすくするには周りの人たちに理解が必要だと思ったから。
	仮説	ポスターによって啓蒙することで健常者の理解を高められるのではないだろうか。
12 班	問い	規格外野菜を有効に活用する手立てとは？
	きっかけ	去年の授業でフードロスについて学習して、もっと追求したいと思ったから。
	仮説	今の時点でどうもろこしなどがバイオエタノールとして利用されているから、規格外野菜もエネルギーとして使えるのではないかな。
4 班	問い	親子の時間を増やすためにはどうすればよいだろうか。
	きっかけ	インターネットで調べた時に、共働き世帯の割合が年々増加していること知ったから。
	仮説	親子で料理教室に参加することをきっかけに親子の時間が増えるだろう。
1 班	問い	どのようにしたらパンの廃棄量を減らすことができるのか。
	きっかけ	食べ物の廃棄量を調べていたら、パンは食べる人が多いのに廃棄量が3番めに多いことが意外だったから。
	仮説	パンの廃棄量を減らすにはなるべく売れ残っているパンを買ったりポスターなどで売れ残りを減らすように呼びかけることでパンを買う人が増えて売れ残り削減になるのではないかな。これをパンの廃棄量を減らすのに生かせるのではないかな。
14 班	問い	熊が人里に降りてくるのを防ぎ、被害を減らすには。
	きっかけ	最近、熊による被害の増加のニュースが増えてきているから。
	仮説	熊が降りてくるのはそこに食べ物があり、出てこれてしまうという理由だから、山の食料が豊富である状態にし、山と人里に境界を作るとよいのではないかな？被害を防ぐにはみんなが正しい対処法を知っている必要があるから、ポスターのようなもので広めると正しく対処できるようになるのではないかな？
11 班	問い	スーパーの食品を売れ残らないようにするためには。
	きっかけ	割引シールの貼られている食品が多かったから廃棄量と関係していると思ったから。
	仮説	ポスターを使って消費者に呼びかければ良いのではないかな。
8 班	問い	秋田県横手市の健康寿命を伸ばすためには。
	きっかけ	自分たちの祖父と祖母が住んでいる横手市の高齢者に健康に長生きしてほしい。
	仮説	適切な睡眠時間を知る、また睡眠の質を高めることで健康寿命を伸ばすことができるのではないだろうか。
13 班	問い	カメムシによる被害を減らすにはどうしたらよいか。
	きっかけ	カメムシによる米や果物の品質が悪くなると市場に出せる物が減ってしまうので、自分たちでなにができるのか考えてみたかったから。
	仮説	カメムシの被害が多いのは個体数が多いから、カメムシの個体数を減らすと被害が収まるのではないかな。
6 班	問い	子供が夢を抱かなくなったのはなぜか。職業に関心を持ってもらうために私達ができることはなにかな。
	きっかけ	インターネットで調べたときに夢についてのランキングを見て、私達の小学生時代と比べ、サラリーマンや公務員などの現実的な夢を持っている子供が多かったため、疑問がうまれたから。
	仮説	コロナウイルスが流行ったことで活動の範囲が狭まったことや、周りの大人を見て、考えが現実的になったのではないかな。自分の夢を素直に表現することで、自信や可能性、職業への関心がうまれる。また親や先生、地域という環境の影響が大きいと感じたので、夢を実現するための意欲を上げるために言葉遣いに視点を当てて、実現のための手助けをすればよいのではないかな。
10 班	問い	給食の残飯を減らすための対策と活用の仕方は？
	きっかけ	中学生の時に毎日のようにたくさんの給食が残ってしまうのが気がかりだった。そこから、どうすればこの残った給食を減らせるのか？と思ったのがきっかけだった。そして残飯という食品ロスが起こると問題になってくるのが、「生ゴミ」の処理である。生ゴミを処理するのに必要なのはお金と資源だ。食品ロスから生まれる生ゴミ（＝お金と資源）を減らす取り組みを身近でできないかな？と考えた結果、『給食』だった。
	仮説	中学生の食品ロスに対する意識を学級新聞風のポスターを使って変えることによって給食の残飯は少しでも減るのではないだろうか。そこから家庭でも食品ロスを減らそうという意識になる。生ゴミを植物の肥料にすることで、家庭内のゴミなどが減り、ゴミを燃やすための資源も削減される。
7 班	問い	小学校低学年の子供が自分で自身を守れるようにするには、どうしたらよいか？
	きっかけ	虐待について考えるにあたって根本的な課題を解決するのは難しいと思った。かと言って、虐待を受けている子どもが誰かに相談するのも難しいと文献調査でわかった。それを踏まえて、児童保護・支援施設等が示された地図を作って逃げ道を与えればよいのではないかなという結論に至った。
	仮説	逃げ場が簡単に分かる地図を作って低学年の子供が活用すれば助けを求めることができるのではないかな。
9 班	問い	一人暮らしで比較的健康な60歳以上の高齢者が健康でいられる食事とは？
	きっかけ	横手市の高齢化問題について自分たち（若い世代）ができることを考えたときに料理なら手軽にできると思ったから。大豆ミートを使ったレシピは普段料理をしない自分たちでもおいしく簡単にできたし、大豆ミートは高タンパク質な栄養食で比較的健康な60歳以上の高齢者の人たちの健康維持にも適していると思ったから広めることにした。
	仮説	高齢者はタンパク質、カルシウムが不足しているため、それらの栄養を多く含んだ大豆ミートを使った食事をしたら良いのではないかな？大豆ミートの良さや、レシピをポスターを使って学校祭で多くの人に広めよう。



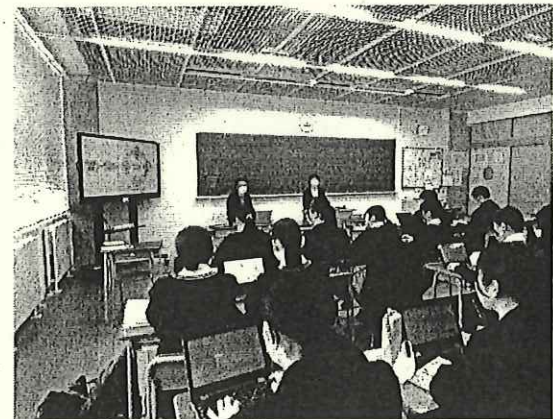
探究発表会



県庁出前講座



グローバル理系・サイエンス・ダイアログ



地域文化コース・探究発展に向けた講話

#### 4 まとめ

##### (1) 成果

###### ・「探究 Jr.」

第1学年：横手市内の工場を見学したり、成瀬ダムの建設工事を見学したりすることを通して、「ものづくり」に関心をもつことができた。

第2学年：「秋田活性化プロジェクト」と称して、秋田県を活性化させるために、自分たちができることを考えた。その結果、秋田県の素材の良さを広めるために、横手市内にある企業と連携して商品開発を行い、清陵祭で販売することができた。

第3学年：秋田県と修学旅行で訪れた東京都を様々な観点で比較することを通して、これからの秋田県に必要なことを考えることができた。

###### ・「探究基礎」

数年にわたるコロナ禍によってなかなか校外のコンテスト等に出られない状況であった。今年度は、自由すぎる研究 EXPO に出品することを目標に活動を行ってきた。全員出品が可能な状況になり、4月当初に出品予定である。

###### ・「探究」

担当職員をグループに固定せずに進めたことで、生徒たちは自分たちで考え、解決するための方法を見つけ試行錯誤することが出来たと思う。また検証方法を2種類以上にしていて様々な手法を取り入れながら工夫出来ていた。コロナ禍でフィールドワークが難しかったことを考えると、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に分類され、取り組むことが出来て良かった。

##### (2) 課題

###### ・「探究 Jr.」

第1学年：「郷土学」というテーマに適した活動内容にする。（見学施設の精選）

第2学年：連携できる企業を増やし、開発商品の幅を広げる。清陵祭以外でも販売する。秋田の活性化を実感できる内容にする。

第3学年：発表会Ⅱの準備と、校長への自己プレゼンの準備の時期が重なってしまうため、事前に計画的に活動を進める。

###### ・「探究基礎」

仮説の明文化にハードルがあったように考えられる。また、Google Workspace を用いて、課題の配信、提出を行ったが、ICT 関連のスキル不足が感じられる場合があった。

###### ・「探究」

フィールドワークに出かける際の校内ルールを定める必要がある。また、職員側の生徒の導き方については職員研修などの機会を持った方が良いと考えられる。そして、今後生徒の活動に関係・協力して下さる方々を開拓していけるようにしたい。

##### (3) 成果の普及

###### ・「探究 Jr.」

7月と12月に、全校縦割による探究 Jr. 発表会を行った。7月は中間発表会、12月はまとめの発表会という形で行った。他学年の発表から学んだり、発表スキルを向上させたりすることができた。また、第2学年の学年発表会には、ゲストティーチャーとして、商品開発に携わった企業の方々も参加して意見や感想をいただいた。さらに、県立中学校3校による合同発表会に参加し、他校の実践を学ぶことができた。

- ・「探究基礎」

成果発表時の動画をすべて記録している。本校では、「探究データベース」を共有ドライブに構築しており、こちらは文献資料が主である。ここに動画データとしても登録すべく準備を進めている。また、自由すぎる研究 EXPO に全員の作品を出品する。

- ・「探究」

個人のポスターに関しては来年度の学校祭で全員分掲示する。また、グローバルコースは弘前大学太宰治記念「津軽賞」に探究活動をまとめた小論文を出品する。

# 令和5年度 初任者研修を終えて

保健体育科 小野 孝之

## 1. はじめに

本校に赴任し、早くも一年が経とうとしている。4月当初、教諭という責任ある立場となって新しい学校、新しい生徒、新しい職員の方々と、新しい仕事という初めての連続に毎日緊張していた。今年度を振り返り、あらためて研修を行っていただいた先生方への感謝と教員としてこれからの自身の糧にしていきたいと思う。

## 2. 校内研修

### 2.1 教科研修

指導教員の神谷先生をはじめ、多くの先生方に授業を参観いただき、沢山のご助言をいただいた。保健体育という教科の目標は、「生徒が生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力の育成」であり、実技・座学の両方を通してその目標達成を目指している。一年間の教科研修を通して、その目標を達成するために必要となる指導力を学ばせていただいた。沢山の事を学ばせていただいた中で特に印象深い内容を振り返りたい。

授業を行う上で1時間の授業を明確にすること。そのために本時のねらい、学習活動、評価方法の整合性が一致することが重要であることを学ばせていただいた。本時のねらいに対して学習活動が合わなかったり、評価すべきことが違ったりすると1時間の授業の軸がブレてしまう。1時間の授業を通して生徒に身に付けさせたいことが本時のねらいであり、ねらいを達成できるための学習活動を精選すること、達成できたかを確実に評価できる評価方法を行っていくことが重要であることを学ばせていただいた。また、指導と評価の一体化の部分でも整合性を一致させることが重要であり、教員自身の授業改善にもつながる。

これからも研修や授業の中で発見した自らの課題を改善し、よりよい授業ができるよう今後も授業改善に取り組んでいきたい。

### 2.2 一般研修

庫山校長先生、山本教頭先生をはじめ多くの先生方に教諭としての心構えや分掌の運営について教えていただいた。私自身、分掌業務の経験が少なく不安な部分が大きかったが、研修を通して各分掌における意義や内容を学ばせていただくことができ、大変勉強になった。また、本校は中高一貫校であり学校行事や生徒指導、進路指導など様々な業務も、その特色に合わせて運営されていることを学ばせていただいた。業務の意義や重要性等の学んだことを踏まえ、本校の運営に自分がどのように貢献できるか考え、行動していきたい。

### 3. 校外研修

校外研修は、主に秋田県総合教育センターで、月に1回の頻度で行われた。教科指導や、生徒指導など多岐にわたる内容の研修を受講した。今回はその中でも特に印象深いものを振り返りたい。

#### 3.1 初任者研修Ⅰ期 「初任者への期待」

秋田県総合教育センターで行われる初めての研修であった。初任者への期待としていた言葉の中で「生徒に人として生き方在り方の何かを残せるか」、「何を習ったかは忘れるが誰から習ったかは忘れない」という言葉が特に心に響いた。この言葉をいつまでも忘れず、日々精進しなくてはならないと強く感じた。

#### 3.2 初任者研修Ⅶ期 「授業展開の方法と実際」

初任者が生徒役となり、初任者同士で模擬授業を行い成果と課題について話し合った。生徒視点で見ることで発問の仕方や指示の仕方等の重要性を改めて感じた。発問や指示が明確であると生徒自身が学習活動を行いやすい。私自身の課題も「生徒が学習を深めるための手立て」を課題として挙げていただいた。この研修で学んだことを、普段の授業改善に活かした。

#### 3.3 高等学校初任者研修 「授業研修」

秋田県立秋田明德館高等学校で行われた定時制・通信制生徒の生活体験発表大会の参観と授業参観、秋田明德館高等学校校長先生の講話を聞かせていただいた。生活体験発表大会があることをこの研修で初めて知った。生徒たちの発表が始まると私がイメージしているよりも遙かに壮絶な体験をしてきたのだと感じた。どの生徒の発表も心に響くものばかりであった。また、授業参観では単位制であるため授業によって受講者数が異なっており、受講人数や生徒の実態に応じた学習活動が行われていた。本校の生徒に授業を行う際にも活用できることが沢山あり大変勉強になった。校長先生からの講話では、教師に求められる資質として学び続ける姿勢があることや生徒に向き合う姿勢、社会等とつながる姿勢が重要であるというお話が心に響いた。

### 4. 最後に

4月から教諭としての職務が始まり、担任や分掌の仕事等初めてのことで戸惑いながらの一年であった。そんな私に先生方はお忙しい中、貴重な時間を作っていただき校内・校外研修を行っていただいたことは感謝しかありません。指導教員の神谷先生をはじめ、沢山のことをご教授して下さった先生方、本当にありがとうございました。まだまだ力不足であり、これからも先生方から学ばせていただけると幸いです。引き続き学び続け、初心を忘れることなく、研鑽を積んで参ります。

1 研修の目標

学校組織マネジメントの意識を高め、学習指導や学年経営、生徒指導等についての実践的指導力の向上を図る。

2 研修の日程

I 期 令和5年 7月5日(水) 10:00~16:15

- 1 開会行事・オリエンテーション  
総合教育センター 主幹 日沼 良樹
- 2 講義・演習  
教育相談と人間関係づくり  
総合教育センター 指導主事 小野寺 祐
- 3 講義・演習  
発達障害のある生徒の理解と支援  
総合教育センター 主任指導主事 牧野 幸枝
- 4 生徒の実態を踏まえた授業改善①

II 期 令和5年10月17日(火) 10:00~16:15

- 1 オリエンテーション
- 2 講義・協議・演習  
生徒の実態を踏まえた授業改善②  
総合教育センター 指導主事 小宅 茂子
- 3 講義・協議・演習  
生徒の実態を踏まえた授業改善②  
総合教育センター 指導主事 小宅 茂子
- 4 学校組織の一員として—マネジメントの視点—  
総合教育センター 指導主事 菅原 徳浩

3 講座を振り返って

I 期について

研修では同期採用の仲間と久しぶりに会うことができ、たくさん情報交換し、実り多い研修となった。

「教育相談と人間関係づくり」では、生徒や保護者との面談で大切にしたいことを再確認することができた。夏休みに行われる面談で活かすことができた。また、人間関係づくりの1つとして「ヒミツノアイコトバ」というナゾ解きエンカウンターを教員7名のグループ対抗で実際に体験した。私のグループでは制限時間の中で解決までたどり着くことができず、モヤモヤした気持ちが残ってしまった。そのため、掲載されている図書をすぐに購入した。教材研究をし、本校2年生で2回実践することができた。

「発達障害のある生徒の理解と支援」では、特別支援の現状について確認したり、ある事例が起こった場合にどのような要因や背景があるのか考えたりした。講義では、子ども達を認めたり、ほめたり、できないことへの抵抗感を軽減するなどの支援の充実がキーとなると感じた。

II 期について

研修ではたくさん情報交換し、実り多い研修となった。

「生徒の実態を踏まえた授業改善②」では、I期に計画した授業改善について成果と課題について、各受講者から発表が行われた。I期からII期まで2ヶ月という短い期間であったが、各受講者の先生方から多くの授業改善に向けた取組が紹介された。学校は違うが、自校でも取り組んでみたい事例も多く、生徒の実態を踏まえて参考にしていきたい。私の発表では、各校の先生方から「参考にしたい事例が多くあった」、「その教材データがほしい」などの嬉しい感想をいただくことができた。

「学校組織の一員として—マネジメントの視点—」では、保護者に学校教育目標を分かりやすく説明するポスターを考え、作成した。交流では、学校や地域の特徴を表現しているイラストを描き入れる先生もおり、保護者に分かりやすく伝えようとするための工夫が様々紹介され、勉強になった。一方で、学校要覧を確認しながら作成していく中で、私自身が本校での重点をしっかりと理解できていなかった点が多くあることに気付いた。しっかりと読み込み、組織の一員として教育に当たりたい。



## 実践的指導力向上研修講座（高等学校8年目）を受講して

教諭 風登 友美

### 1. はじめに

中堅教員として、生徒指導力やホームルーム経営力の向上はもちろんのことだが、授業や評価の仕方が変化の中で教師としての対応力が大きく求められる時期に当たると強く感じた。また、秋田県では「キャリアアップシート」の活用を推進している。教職8年目は第2ステージ「実践的指導力向上期」に当たる。「実践と改善」を繰り返し、自らの資質向上に向けて主体的に研修に取り組みたいと感じた。その研修の内容と成果を以下に記していきたい。

### 2. 概要

①研修の目的 自己の理解に基づき、個々の個性・適性、分掌等に応じた資質能力の向上を図る。

#### ②研修の内容

期	日にち	研修内容
I	6/23 (金)	○不登校の未然防止と対応 ○学校組織の一員として ー自己理解に基づく目標設定ー ○カリキュラム・マネジメント
II	8/8 (火)	○カリキュラム・マネジメントを軸にした授業改善

### 3. 研修から

#### 【I期】

##### ①不登校の未然防止と対応

不登校の未然防止のために、生徒との信頼関係づくりが欠かせないことを改めて確認することができた。不登校を未然に防ぐことができなかつた場合でも、生徒の様子に応じた対応と保護者や関係機関との連携を確実に行っていきたい。また、ICTを活用した支援についても考えることができたので、適切に活用し、実践していきたいと感じた。

##### ②学校組織の一員として ー自己理解に基づく目標設定ー

自己理解を通して、自分の強みと弱み気づくことができた。私は少し、自己評価が低いところがあるが、強みを自信にして、弱みを改善していきながら今後の教師生活を過ごしていきたいと感じた。

##### ③カリキュラム・マネジメント

カリキュラム・マネジメントにおけるPDCAサイクルについて知ることができた。また、勤務校の良さと課題が見つかったので、自身の教科の家庭科でどうアプローチできるのか、まずはその課題や方法等を可視化して考えていければと感じた。

#### 【II期】

##### ①カリキュラム・マネジメントを軸にした授業改善

I期の研修を元に、授業を構成・実施したが、もう少し本校の学校教育目標をかみ砕き、教科の特性を活かして、生徒の探究力を伸ばす授業を考えていきたいと感じた。また、個別最適な学びを深めるために、協働的な学びがあることを知った。個々の生徒の視点を大切に、生徒が自ら課題を見つけ、解決できる力を高校卒業までに身につけさせたい。さらに、他者との関わりにおいて各々の視点を多角的・多面的に捉えさせ、新たな気づきとなるような授業展開を心掛けたい。

#### 4. 終わりに

今回の研修を受け、学校が目指す生徒像や育成したい資質能力に応じて「チーム学校」として学校全体、学年全体、他教科と連携していく必要性について理解した。年間指導計画等を各教科で刷り合わせる機会を年度の初めに設け、教科横断的な学習や他教科との協働的な学びの実現に努めていければ、生徒にとってより学びが深まるだろう。また、実践的指導力の向上のためには、日頃の自らの指導を振り返り、課題を見つけ、実践し、改善していく事が大切だということを改めて感じた。自分の強みや弱みを再確認できたので、日々の教員生活に活かしていこうと思う。今回も秋田県総合教育センター主任指導主事部谷靖子先生を始め、たくさんの先生方からご指導を頂くことが出来た。このような貴重な研修の機会を頂けた事に感謝し、今後も研究と修養を重ねていきたい。

# 家庭科「家庭基礎」学習指導案

授業者：横手清陵学院高校 風登 友美

- 1 日時・場所 令和5年7月14日(金) 5校時・1年4組教室
- 2 対象 1年総合技術科23名(男子23名)
- 3 単元名 超高齢社会を共に生きる(教科書：「家庭基礎 自立・共生・創造」(東京書籍))
- 4 本時の目標 遠方に住む親の介護支援について考える。
- 5 本時の計画

(1) 本時のねらい (評価の観点) :

高齢者の自立生活の支援や介護について問題を見いだして課題を設定し、その課題にあった具体的な支援方法を考察し、まとめることができる。(思考・判断・表現)

(2) 学習過程

[A] 知識・技能 [B] 思考・判断・表現 [C] 主体的に学習に取り組む態度

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 (5分)	1 アンケートの回答結果から、自分が介護をする立場になった時のことを想像する。	・ 同居家族や親の介護についていずれは自分たちが関わっていくという意識を持たせる。	
本時の目標：遠方に住む親の介護支援について考える。			
展開 (40分)	20分 2 事例を読み、「父の状態」と「自分の状況」についてまとめる。動画で「要介護2」の状態について確認する。 3 将来の自分の状況設定を確認する。【グループ】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動画から、事例の父親の心身の状態を具体的にイメージさせる。</li> <li>・ グループワークを行うため、3～4人のグループを作るよう指示する。</li> <li>・ 各グループの状況設定を指示する。</li> </ul>	高齢者の自立生活の支援や介護について問題を見いだして課題を設定し、その課題にあった具体的な支援方法を考察し、まとめている。 [B] 【ワークシート、発表】
	20分 4 父親の介護をするにあたり、課題となることを挙げる。 【個】 5 グループ内で各自考えた課題を発表し合い、その課題を解決するための支援の方法について話し合う。 【グループ】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事例と将来の自分の状況を踏まえて考えるよう指示する。</li> <li>・ 課題を踏まえた支援の方法を①自分にできること②地域の方々にお問い合わせすること③介護サービスの利用の3点から考えさせる。裏面の資料も参考にさせる。</li> <li>・ 全体に向けての発表のため、jamboardに分かりやすくまとめるよう指示する。</li> </ul>	
	20分 6 各グループで選択した事例とその原因・解決策を発表する。 7 介護支援のポイントを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体へ共有できるように jamboard の画面を電子黒板に掲示する。</li> <li>・ 要点をまとめて発表するよう指示する。</li> <li>・ 自助、互助、共助・公助の考え方にも触れ、介護支援のポイントをまとめさせる。</li> </ul>	
まとめ (5分)	8 本時を振り返り、自己評価をする。		

○本時の前後の授業展開：

前時→介護保険と介護サービスの仕組みと利用の仕方について学んでいる。

本時後→地域社会の一員として高齢者との関わり方と自分自身の高齢期について考える。

○協議の視点：主体的に問題解決に取り組み、対話的な学びを通して問題解決への方法を考え、まとめることができるような授業展開となっていたか。(グループワークの設定、教師の支援、ICTの活用について等)

## 編集後記

「令和5年度研究紀要第19号」の発刊にあたり、公務多忙の中、貴重な原稿をお寄せくださった先生方に、深く感謝申し上げます。

この研究紀要が今後の先生方の研修等に、少しでもお役に立てれば幸いです。

研究・研修部

## 令和5年度 研究紀要

第19号

発行 秋田県立横手清陵学院 中学校・高等学校

秋田県横手市大沢字前田147番地の1

電話 0182-35-4033

FAX 0182-35-4034